

第5回 東大和市公園等再整備方針・再整備計画策定検討会

会 議 要 録

- 1 日 時 令和8年4月23日（木）10時00分～12時00分
- 2 場 所 東大和市役所会議棟第7・8会議室
- 3 出席委員 佐藤 伸朗（座長）、町田 誠（副座長）、亀山 明子、山本 尚幸
五十嵐 弘充、木内 健司、寺島 由紀夫
- 4 事務局 佐藤まちづくり部長、鈴木公園緑地担当課長、鈴木計画係長
末吉主事

5 次 第

- 1 座長挨拶
- 2 議事
 - （1）本日の検討会でご意見いただきたい事項
 - （2）第4回検討会の振返り及びその後の対応状況について
 - （3）「東大和市パーク・グラデーションプラン
～多彩な公園の実現に向けた再整備・管理運営～」について
 - （4）オープンハウスの実施について
 - （5）今後のスケジュールについて

6 議事要旨

(1) 本日の検討会でご意見いただきたい事項（事務局から資料説明）

(2) 第4回検討会の振返り及びその後の対応状況について

(3) 「東大和市パーク・グラデーションプラン

～多彩な公園の実現に向けた再整備・管理運営～」について

(質疑応答)

○副座長

「パーク・グラデーション」という表現には、行政視点で「公園ごとに機能や役割に違いを持たせ、限られた公園を効果的に活用していく。」という意味が込められていると考えられる。本計画は、市民向けでもあるため、行政的な機能分担の考え方だけではなく、「多彩な公園」「公園ごとの個性」「暮らしを豊かにする身近な公園」といった、前向きで分かりやすい表現とあわせて示すことで、「パーク・グラデーション」に対する理解が深まるのではないかと考える。

○委員

「グラデーション」は本来、色や明るさの段階的・連続的な変化を意味する言葉であるため、公園の多彩さとどのように結びつくのかについては、説明が必要だと考える。他自治体の公園等の計画において「グラデーション」という言葉の使用例がないのであれば、言葉に込めた想いや意味を丁寧に示す必要がある。

○事務局

これまでの「再整備計画」や「管理運営計画」という名称は、行政計画であることが伝わりやすい一方で、市民にとって、他の計画との違いや、実際に公園がどのように変わるのかが伝わりにくいと考えている。そのため、「パーク・グラデーションプラン」という名称を用いることによって、キャッチフレーズのように「何が始まるのか」と市民に関心を持ってもらうきっかけになると考えている。

○委員

個別の公園にテーマを設定することで、今後、それぞれの公園をどのような方向で再整備・管理運営をしていくのか、公園管理者が判断しやすくなると感じた。

公園のテーマを設定するにあたって、どのような点を考慮して検討したのか確認したい。併せて今回の検討の中で、統廃合の対象とした公園があるのか確認したい。

○事務局

公園ごとのテーマ設定については、市民ヒアリングで得られた意見や、公園の面積、遊具等の公園設備の有無、現在の利用状況などを踏まえて検討をしている。

また、すべての公園に新しい機能を入れるのではなく、今の公園の特徴を活かしながら、各エリアで機能の重複や偏りがないように配置をしている。

今回の検討の中で公園の統廃合については、具体的に個別の公園で統廃合を進める

とは決めていないが、「パーク・グラデーション」を実現するための一つの方法であると考えている。

○委員

市内には公園が多く、個々にテーマを設定すると、全体としてどのような公園再整備を目指しているのか、市民にとって分かりにくくなるのではないかと考えている。また、実際に整備を進めるうえで、地域ごとの説明会や意見聴取を行うと、さまざまな意見が出ることを考えられる。すべての意見をそのまま反映することは難しいと思うが、地域の声を丁寧に聞き、できる限り市民の要望に応えていただきたい。

○事務局

整備内容を検討する際、公園のテーマを設定せずに議論を進めると、様々な意見が想定される中で、方向性が定まりにくいと考えている。そのため、まずはテーマによって検討の大枠を地域と共有し、その範囲内で望ましい整備内容や使い方を地域とともに検討していく考えである。

○委員

同じにぎわい公園であっても、市立狭山緑地と立野西公園では、整備の仕方が異なるのではないかと考えている。にぎわい公園がどれも同じ様に整備されると誤解されないような表現としていただきたい。

○事務局

市域を3つのエリアに分け、各エリアに1箇所ずつにぎわい公園を設定している。これらのにぎわい公園は、各エリアのテーマを体現する公園として位置付けることを考えている。そのため、同じにぎわい公園であっても、地域によって特徴が異なり、それぞれの公園やエリアの特性を活かした整備・運営を行う考えである。

○副座長

各公園タイプに機能が示されている一方で、オープンスペースの公園には機能の設定が全くない。ダウンサイジングをする公園ということを全面的に示すのであれば、この表現のままでも問題はないと考える。

○事務局

オープンスペースについても、ベンチ等による休憩スペースや災害時のスペースとしての利用など、前向きな意味も示しながら説明していく。

○座長

個別の公園テーマを見てみると、全体的に子どもに関するテーマが多いように見受けられる。市民ヒアリングの中で、子どもの利用や遊びに関する意見が多く出た結果か。

また、公園の主な利用者として、子どもを意識した意見が多かったことが背景にあるのか。

○事務局

今回のテーマ設定では、市民ヒアリング等を基に子どもの利用や遊びに関する意見を多く取り入れているが、子ども以外の利用者についても、今後の管理運営やソフト面の取り組みの中で充実させていく考えである。例えば、大人や高齢者の利用に対し

ては、休憩ができる場所、運動ができる場所、交流ができる場所など、施設だけでなく、利用目的や運用面に関して検討を進める予定である。

○委員

公園に一定の広さがあれば、大型遊具の設置だけでなく、管理棟、トイレ、屋根付き休憩スペース、健康遊具、緑道のような散策空間、芝生広場など、さまざまな機能を組み合わせた公園づくりも考えられる。

一方で、そのような多機能な公園整備を行うには十分なスペースが必要であり、すべての公園で同じように実現することは難しいのではないかと。

○事務局

東大和市内の公園の中で、多機能な公園整備を行うことができる場所は限られている。そのため、小規模な公園も含め、公園ごとに機能を分担し、公園全体をどのように充実させていくかが、パーク・グラデーションプランにおける重要な考え方である。

○委員

インクルーシブ遊具について、市内の公園に1か所でも整備できるとよい。車でも行くことができ、面積も広い公園が望ましい。

○事務局

インクルーシブ公園を本格的に整備するためには、遊具だけでなく、誰もが利用しやすいトイレ、駐車場、広場までの導線などを一体的に整える必要があり、一定の面積やアクセス性が求められる。他自治体では、大規模公園や市役所に隣接した公園など、駐車場やアクセス面の条件が整いやすい場所にインクルーシブ公園を整備している例がある。例えば立野西公園は、モノレールからのアクセス性が比較的良好、面積も比較的良好いため、インクルーシブの要素を取り入れる候補となる可能性がある。

○委員

公民連携による公園の管理運営について、どのように考えているのか確認したい。

○事務局

公民連携による公園の管理運営として、イベントの開催などの様々な取組が想定される。

また、民間事業者のノウハウを活用するだけでなく、公園の管理運営の中で地域住民や関係団体との連携を高め、共創を図ることが重要だと考えている。これらの取組を継続的かつ効果的に進めるためには、民間事業者と地域が連携し、公園の使い方や活動について話し合う仕組みが必要であると考えます。

(4) モデル公園選定の考え方について

○委員

オープンハウスを土日の日中に開催する場合、親子で来場される方が多いと想定されるため、子どもの意見を把握する良い機会になると考えられる。ただし、オープンハウスのパネルの内容は、子どもには理解しにくい部分があり、子ども自身の考えを十分に把握できない可能性がある。限られた時間の中で、できるだけ多くの子どもの意見を聴取できるよう、分かりやすい聞き方や参加しやすい工夫が必要である。

○事務局

オープンハウスでは、来場者と可能な限り丁寧にコミュニケーションを取りながら意見を把握できるよう工夫する予定である。子どもが楽しみながら参加できる方法についても検討をする。

○委員

オープンハウスの周知はどのように実施する予定か、できる限り多くの人に来場してもらえるよう、周知方法を工夫していただきたい。

○事務局

オープンハウスの周知方法については、市のホームページ等で周知するとともに、幼稚園や保育園等にも協力を依頼し、案内を行う予定である。

また、これまでに市民ヒアリングを実施した関係者にも周知の協力を依頼するなど、地域のネットワークを活用して情報を広げていく考えである。このように、行政からの一方向の周知だけではなく、地域のつながりを活用しながら、より多くの市民にオープンハウスの開催を知らせていく。

（５）今後のスケジュールについて

○座長

モデル公園である第一光ヶ丘公園は住宅地の中に位置しており、利用者だけでなく、近隣住民からも様々な意見が出ることが想定される。例えば、公園利用者からは「より利用しやすい公園にしてほしい」という意見がある一方で、近隣住民からは「利用に伴う騒音や迷惑行為」等、課題や不安に関する意見が出る可能性が考えられる。

モデル公園の検討にあたっては、前向きな意見だけでなく、近隣住民の懸念や否定的な意見も含めて丁寧に把握し、再整備や管理運営の方向性を検討していく必要がある。

○事務局

モデル公園である第一光ヶ丘公園に設定した公園テーマと活用のイメージを基本として、数回のワークショップ等で、地域住民や利用者とコミュニケーションを図りながら検討を進め、整備内容の具体化を行う予定である。

○事務局

第6回検討会は、令和8年7月23日（木）の開催を予定している。第6回検討会では、「東大和市パーク・グラデーションプラン」の素案を議題とする予定である。

以 上